

おじいちゃんのおこめ

新通小学校

二年

さか田

かいり

「おかあさん、今日もごはんふじ山もりにしてね。」

ぼくは、ごはんが大スキです。たべるときは、フもおちゃんに「ふじ山のふたをあげたりにしてります。すいはんキのふたをあげたときの、もわ」とゆげとい「しまにいいにおいがついてくるのがスキです。」

ぼくの家では、ぼくのおじいちゃんを作

ているおこめをたべています。おじいちゃんには、さどにすんでいて、そこでかんぱっておこめを作っています。いつもぼくに、「ごはんをたくさんたべて大きくな」てね」と言ってくれています。おじいちゃんのおこめは、たべるときはたまらないおいしさで、口に入れてたくさんかむと、とんでんおいしくなる、とてもふしぎなおこめです。

おじいちゃん、たんぼで

「こしがいたい。」

と、フグやいているみたいです。おこめを作るのは、ほんとうにたいへんです。そんなふうにたいへんな思いをして、がんばっておこめを作っているのです。おじいちゃんのおこめはおいしくなっているんだな、と思います。だからぼくは、ごはんも一つづものこさないように、いつもだいにたべていきます。たまたま、お母さんのおきつだいで、おこめをたじぎんびをします。そのときも、おこめも一つづもこぼさないようにしていぬいけいりょうカップではかります。おじいちゃんががんばって作ったおこめを、文じにたべることはとてもたいせつなことだと思います。おじいちゃんのおこめのあじをすつとわすれないで、いっぱいいたづて、元気に学校のみんなとあそびたいです。おじいちゃん、いつもおいしいおこめを作ってくれてありがとう。